

スパイラログで考える 避難所問題

「速く快適な設置を求めて」

災害時の避難所問題について、スパイラログを使って可能性を話し合います。

スパイラログ（Spiralog）は、らせん（Spiral）＋会話（Dialogue）の合成語。単純な円運動ではなく、らせん状に「上昇」していく話し合いであり、同じ話題に戻っても、より高い次元で議論が深まっていくように設計されています。

スパイラログでは、

REALIST（現実主義者）

ANALYST（分析家）

CREATOR（創造者）

という三つの相互補完的な視点から議論します。

- まず、それぞれが意見を表明する「一次立論」を行ないます。
- 次に、異なる視点間で「循環質問」を行ないます。
- そして、質疑応答で得られた気づきをもとに「二次立論」を行ないます。
- 最後に、これらの議論を通じて得られた知見を統合し「第4の解決策」を共創します。

●スパイラログ基本モデル

第1ステップ：視点設定

- ・以下3種類の視点を設定してグループ分けする
 REALIST (R) : 実現性軸
 ANALYST (A) : 影響範囲軸
 CREATOR (C) : 価値観軸
- ・3つの視点は「対立軸」ではなく「補完軸」として設定
- ・各グループの視点が「部分的真理」であることを確認

第2ステップ：一次立論：

- ・3つの視点に基づいてR、A、Cそれぞれが意見を発表する

第3ステップ：循環質問：

- ・各グループは他の2グループに対して以下3つの質問する
- ・DEEP Q：相手の視点をより深く理解するための探求質問
- ・INTER Q：自分たちの視点と相手の視点の相互依存関係を探る関係性発見の質問
- ・PIVOT Q：各視点が依拠している前提条件（スパイラルの回転軸）を明らかにする質問

1.DEEP Q

1-1: R to A、1-2: R to C、1-3: A to C、1-4: A to R、1-5: C to R、1-6: C to A

2.INTER Q

2-1: R to A、2-2: R to C、2-3: A to C、2-4: A to R、2-5: C to R、2-6: C to A

3.PIVOT Q

3-1: R to A、3-2: R to C、3-3: A to C、3-4: A to R、3-5: C to R、3-6: C to A

※それぞれQの後に回答タイムを設けるので全部で18回の質疑応答が行なわれる。

第4ステップ：二次立論

- ・質問で得られた知見を参考に、3つの視点を統合し再構築した新しい枠組みを提示する。
- ・各グループが「自分の視点を保ちながら、他の視点も活かす方法」を提案。
- ・単なる妥協ではなく、ひとつ上のレベルからメタな視点を確保する。

第5ステップ：協働創発立論

- ・3つのグループが協働して「第4の解決策」を創出する。
- ・誰も最初には考えていなかった道を探す。
- ・Win-Win-Winを超えた「創発的価値」を発見する。
- ・正解を探すのではなく、より良い理解を共に創る。
- ・部分最適ではなく全体最適を目指す。

台湾やイタリアは災害時の避難所がスピーディーに設置されて設備も快適とされます。日本の避難所はいつまでも旧態依然とした雑魚寝で環境が一向に良くならないと言われます。日本の避難所事情が改善しない理由として、何が考えられるか。また日本の避難所をイタリアや台湾レベルに向上するためのロードマップについてスパイラログで話し合います。

第1ステップ：視点設定

対話を進めるにあたり、以下の3つの視点を設定します。

- **REALIST (R)：実現性・現場軸**
 - 「TKB48（トイレ・キッチン・ベッド）」の資機材、民間の物流網、現場で動く専門人材、備蓄の仕組みなど、具体的な「モノと人」に注目する視点。
- **ANALYST (A)：影響範囲・制度軸**
 - 災害救助法の改正、国と自治体の責任分担、「スフィア基準」の義務化、全国共通の性能評価、防災庁の設置など、社会の「枠組み」に注目する視点。
- **CREATOR (C)：価値観・人間軸**
 - 「我慢は美德」という文化の変容、避難者の尊厳と人権、二次被害（災害関連死）を防ぐQOL（生活の質）、精神的な豊かさなど、「心と価値」に注目する視点。

第2ステップ：一次立論

- **R（リアリスト）：**

「改善が進まないのは、現場に『モノ』と、それを使いこなす『専門家』がセットで届かないからです。民間企業と『防災キャパシティ契約』を結び、発災24時間以内にベッドやトイレを自動展開できる物流システムを構築すべきです。」
- **A（アナリスト）：**

「市町村に責任を押し付ける現行の『自助』原則には限界があります。国主導のプッシュ型支援を法定義務化し、全国どの避難所でも一定の生活質を保証する『標準化』と『監査』の仕組みが必要です。」
- **C（クリエイター）：**

「最大の問題は、劣悪な環境を『被災者だから仕方ない』と諦める文化です。避難所の快適性は贅沢ではなく、命を守るための権利です。避難者を『救助の対象』ではなく、尊厳ある『生活者』として扱う意識改革が不可欠です。」

第3ステップ：循環質問（18の質疑応答）

ここが対話の「心臓部」です。各グループが他のグループへ深く問いかけます。

1. DEEP Q（探求質問）

- 1-1 R to A：「法定義務化は重要ですが、財源が乏しい自治体に対して、国は具体的にどう予算を担保すべきだと思いますか？」
 - Aの回答：「防災を『平時には使わないコスト』ではなく『社会インフラの維持費』と再定義し、国が防災庁を通じて一括管理する予算枠を創設すべきです。」
- 1-2 R to C：「『尊厳』は大切ですが、現場の混乱期に、具体的にどの設備が最も避難者の尊厳を守ると考えますか？」
 - Cの回答：「まずは『プライバシーの確保（パーティション）』と『清潔なトイレ』です。これらは羞恥心や健康に関わり、人間としての尊厳の最低ラインだからです。」
- 1-3 A to C：「人権重視への理念転換を掲げた場合、日本特有の『お互い様』という共助の精神とどう整合性を取りますか？」
 - Cの回答：「共助は『耐え忍ぶ』ためではなく、共に『より良く生きる』ために使われるべきです。公助が基盤（QOL）を支えることで、共助はより創造的になります。」
- 1-4 A to R：「民間との協定を実効性あるものにするために、民間に求める『標準化』の最低条件は何でしょうか？」
 - Rの回答：「『発災○時間以内に、○人分の性能基準（ベッド・空調等）を確実に届ける』という時間軸と品質の数値目標です。」
- 1-5 C to R：「最新の資機材があっても、現場を動かすのが疲弊した自治体職員では限界があります。人をどう支えますか？」
 - Rの回答：「『避難所運営士』などの専門職を国家資格化し、外部からプロのチームが即座に介入して職員を解放する仕組みを作ります。」
- 1-6 C to A：「制度を標準化する際、女性、高齢者、ペット連れなどの多様なニーズが削ぎ落とされない工夫はありますか？」
 - Aの回答：「性能評価の項目に『多様性対応』を必須化し、ランキング形式でその対応状況を可視化することで、自治体の実装を促します。」

2. INTER Q（関係性発見質問）

- 2-1 R to A：「民間の物流網（R）と、国の指揮系統（A）が、平時から『一つのシステム』として機能するための結節点はどこにありますか？」
 - Aの回答：「デジタル庁とも連携した『防災DX』プラットフォームです。リアルタイムの在庫と需要を可視化し、法に基づき自動で発注が飛ぶ仕組みです。」
- 2-2 R to C：「快適なベッドや食事（R）を提供することは、避難者の『自立しようとする意欲（C）』にどう影響すると思いますか？」
 - Cの回答：「十分な睡眠と栄養は、精神的活力を回復させます。過酷な環境での疲弊こそが自立を妨げるので、Rの充実がCの回復の前提条件です。」
- 2-3 A to C：「スフィア基準（A）という国際標準を取り入れることは、日本の文化（C）を壊すのではなく、どう進化させますか？」
 - Cの回答：「日本の『おもてなし』を、災害時という極限状態でも科学的根拠（基準）に基づいて提供する『人道的なおもてなし』へと進化させます。」
- 2-4 A to R：「広域応援ネットワーク（A）を回すために、各地域が持つべき『動的な備蓄（R）』の役割とは何でしょうか？」
 - Rの回答：「倉庫に眠らせる『ストック』ではなく、キャンプ場等で平時利用しながら災害時に移動させる『フェーズフリーな動産』としての役割です。」
- 2-5 C to R：「避難所マネージャー（R）という専門職には、技術以外にどのような『人間へのまなざし（C）』が必要でしょうか？」
 - Cの回答：「被災者の声なきニーズを汲み取る『エンパシー（共感力）』と、個人の尊厳を守るための『倫理観』が、技術と同等に必要です。」
- 2-6 C to A：「避難者の『こうしてほしい』という生の感情（C）を、どうやって法制度（A）の改善にフィードバックし続けますか？」
 - Aの回答：「避難所ごとの『満足度調査』を制度化し、その結果が自治体の防災予算配分や評価に直結する民主的な仕組みを作ります。」

3. PIVOT Q（前提条件・軸の問い）

- 3-1 R to A：「そもそも『学校の体育館』を避難所の前提にしていること自体が、改善を阻む最大の固定観念ではないでしょうか？」
 - Aの回答：「その通りです。体育館は『一時待機所』とし、生活の場はキャンプ場やホテル、あるいは迅速に設営される『テント村・コンテナ村』へ移行すべきです。」
- 3-2 R to C：「災害時だけ『特別に我慢する』のではなく、平時の『アウトドアや旅の楽しさ』を延長線上で使えませんか？」
 - Cの回答：「『日常の延長（フェーズフリー）』という考え方は、被災のショックを和らげます。災害を『非日常』から切り離すことが解決の鍵です。」
- 3-3 A to C：「『公助』の不備を『自助・共助』の美談ですり替えてきたこれまでの政治的・社会的構造をどう打破しますか？」
 - Cの回答：「災害関連死を『防げたはずの死』として明確に定義し、行政の不作为を可視化することで、国民の権利意識を覚醒させる必要があります。」
- 3-4 A to R：「『備蓄する（所有）』という前提を捨てて、『必要な時に届く（アクセス）』というサービスモデルへ完全に移行できますか？」
 - Rの回答：「可能です。民間企業の在庫や配送網を、有事にのみ国が徴用・活用する『防災サブスクリプション』モデルへの転換が可能です。」
- 3-5 C to R：「被災者を『管理される対象』と見るのではなく、避難所運営の『パートナー』として扱うことは技術的に可能ですか？」
 - Rの回答：「スマホアプリ等で避難者が自ら物資を注文したり、運営のタスクを分担したりする『参加型運営システム』を導入すれば可能です。」
- 3-6 C to A：「国が守るべきは『地域』ではなく、移動する『個人の命の質』であるというパラダイムシフトは可能ですか？」
 - Aの回答：「自治体の境界を越えた『被災者台帳の広域化』と『パーソナル・サポート』を法制化することで、個人に紐付いた救助が可能になります。」

第4ステップ：二次立論

循環質問を経て、各グループは自らの意見を再構築します。

- **R（リアリスト）の再提案：**

「単なる物資の備蓄ではなく、平時はキャンプ場やイベントで収益を上げ、有事には数時間で500人規模の高度な生活拠点に変わる『動くインフラ』の全国展開を提案します。」

- **A（アナリスト）の再提案：**

「『防災庁』を単なる調整役ではなく、全国の避難所のQOLを格付けし、最低基準を下回る自治体には介入・是正命令を出す『品質保証機関』として確立することを提案します。」

- **C（クリエイター）の再提案：**

「『被災者』を『災害を生き抜くクリエイティブな主体』と定義し直します。そのためには、スマホ一つで尊厳あるサービス（個室、温食、入浴）を当たり前 enjoyment できる仕組みが必要です。」

💡 **メタな視点による振り返り：**

「なぜこの3つの視点が必要だったのか」を振り返ると、「技術(R)があっても制度(A)がなければ広がらず、制度があっても価値観(C)が変わらなければ機能しない」という、三者の相互依存関係が浮き彫りになりました。

第5ステップ：協働創発立論（第4の解決策）

3つの視点を統合した、誰も最初には考えていなかった「第4の解決策」を提示します。
創発された解決策：

『日本発・フェーズフリー防災サービス都市（エマージェンシー・ヴィレッジ）構想』

これは、避難所を「体育館に作るもの」から「全国のネットワークとして常時起動しているもの」へと転換する構想です。

1. 防災サービス産業の創出：

国が民間企業と「防災キャパシティ契約」を結び、企業は平時から高性能なテント、トイレ、キッチンを商業利用（グランピング等）しながら、有事には24時間以内に被災地へ「生活インフラそのもの」を届けるビジネスモデルを確立します。

2. 避難所格付け（QOLスコアリング）：

全国の避難所の設備・運営状況を「A+～C」でリアルタイムに可視化し、住民が自分の地域の避難所の質をチェックできるようにします。これにより、自治体間に「快適さと安全」の競争を生みます。

3. 専門部隊とデジタルの融合：

国家資格を持つ「避難所マネージャー」が、DX化された物流システムを駆使し、被災者一人ひとりのニーズ（食事、医療、ペット、プライバシー）に合わせたパーソナライズされた支援を「注文からお届け」まで管理します。

これにより、「体育館で雑魚寝」という日本の風景は、10年以内に「72時間以内に立ち上がる、世界で最も尊厳を保てる生活インフラ」へと書き換えられます。

【今回のシミュレーションで最も驚いた発見】

「避難所の質が悪いのはお金や技術がないからではなく、避難所を『建物』だと思い込んでいたことが原因だった。

避難所は『建物』ではなく、平時と有事を行き来する『物流とサービスの動的なシステム』だと捉え直した瞬間に、解決策が次々と溢れ出してきたこと」です。